

「えほんと楽しむ さんべでクリスマス！」

1 趣 旨

- ・創作活動を通して、体験活動の楽しさを知り、体験活動に興味・関心をもつ。
- ・クリスマスや冬にちなんだ本を絵本専門士に読み聞かせしてもらうことで本に親しむ。

2 事業の概要

(1) 期 日

令和4年12月17日(土)～12月18日(日)【1泊2日】

(2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 講 師

絵本専門士3人(鎌田 由美氏、内田 大樹氏、金築 良枝氏)

(4) 対 象

主として4歳～6歳とその家族(小学校低学年も可)

(5) 参加者

53人(15家族) 募集人数 60人 応募人数 83人

(6) 日程・内容

	13:00	13:30	14:00		16:30	19:00		20:00	21:00
12/17 (土)	入 所	受 付	オリエンテーション はじまりの会	ランプシェードをつくろう! クリスマス飾りとしてランプ シェードを作ります。	夕食・入浴	クリスマス会をしよう! 親子で楽しいレクリエー ションを行います♪		就寝準備	就 寝

	6:30	7:00	7:30	9:00	9:30		11:30	12:00
12/18 (日)	起 床	清 掃	朝 食	退 所 点 検	えほんの世界へようこそ! 絵本の読み聞かせを行います。 どんな絵本が出てくるかな。		お わ り の 会	解 散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

○ 全体を通して

読書活動普及の観点から、職員と法人ボランティアが要所要所に絵本の読み聞かせを行い、前後の活動のねらいに応じた意識付けを行った。(例：夕食、入浴の前には入浴や歯磨き等の支度を自分でできるよう促す絵本を読むことで、交流の家で大事にしたいことの一つである「自分のことは自分でする」ことの意識付けを行った。)絵本専門士に選書を依頼することで、場面に合った絵本を読むことができた。

また、本事業は今年度で10年継続している事業であるが、読書活動を取り入れた事業であることを応募の際に分かりやすく伝えるために、事業名を従来の「SANBEでクリスマス！」から「え

ほんと楽しむ さんべでクリスマス！」に変更した。

○ ランプシェードをつくろう！」

参加対象を低年齢の子どもに限定したことにより、創作物は比較的安価かつ、単純作業で完成するものにしたいと考え、内容を「ランプシェードづくり」とした。また、家族の中の交流を意識し、幼児だけでは完成することができない難しい工程も取り入れることで、親子で言葉を交わしながら創作できるようにした。完成したランプシェードは、2日間を通して活用できるようプログラムの中に組み込んだ。

○ 「クリスマス会をしよう！」

夜のプログラムは、2部構成にした。1部は、参加者間及び親子間での交流を促進するレクリエーションを行った。2部は、日中に作成したランプシェードに明かり（ろうそくの形をしたLEDライト）を灯し、本日の感想や、今後やりたいこと、今までに家族で経験して楽しかったことなどを家族間で共有し、ふだん意識して語り合うことができないことを語る時間を確保した。また、今回参加した3人の法人ボランティアは自然体験活動指導者（NEALリーダー）の資格を持つ者であったため、個々の研修の場となるようレクリエーションの運営を一部任せた。

○ 「えほんの世界へようこそ」

絵本専門士の読み聞かせを十分に堪能してもらうために、家族を3チームに分け、3人の絵本専門士のそれぞれの部屋を参加者が回る方法で読み聞かせの時間を確保した。テーマについては、絵本専門士と検討し、「あかりのへや」「ごちそうのへや」「ゆきのへや」に設定した。

「あかりのへや」では、自分たちが創ったランプシェードに明かりを灯して読み聞かせを聞く演出を行った。それぞれのテーマに沿った絵本の世界を堪能した後は、フィナーレとして絵本専門士、職員、ボランティアのスタッフ全員でクリスマス絵本の群読を行った。

※ 群読とは、複数の読み手による朗読のことである。

(2) 運営のポイント

クリスマス事業の雰囲気を出すために、会場に飾りつけとクリスマスソングを流した。また、職員とボランティアがクリスマスの衣装を着用することで、よりクリスマスをイメージできるようにした。

創作活動では、近隣から採集した木の実の名前を紹介する表示を行った。日常に見ることができる木の実も多いことから、周辺で見つけた際に気付いてもらえるように配慮した。また、危険な道具（グルーガンやはさみなど）の使い方を説明することで、事前にけがを防ぐことを意識した。そして、複数のランプシェードを創る家族があることを想定して多めに材料を準備したが、家族の交流を促進することがねらいの一つであるため、1家族が1個のランプシェードを試行錯誤しながら創ることを前提に運営した。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	94	6	0	0
プログラム	94	6	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・子どもの自立心が育ったように思います。
- ・親一人で参加したので、小さい子の対応をしてくれて助かりました。
- ・絵本も工作も大好きで楽しく過ごせました。
- ・講堂での読み聞かせだと、後ろのほうにいると見えにくかった。

5 成果と課題

《成 果》

- ・絵本専門士3人の方に講師として来ていただいたことにより、絵本の選書、運営についてのアドバイスをいただきながら、より有意義な事業を企画、運営することができた。今後も、当所の事業に御協力いただき、読書活動の普及に努めていきたい。
また、フィナーレ後も絵本専門士に質問する家族があり、参加者が絵本に興味を持っていることを実感した。
- ・アンケートの「子どもの自立心が育ったように思います。」との意見から、当所の大切にしたいことをオリエンテーションや絵本の読み聞かせで意識付けできたと考える。
- ・フィナーレ後は、絵本専門士が使用した絵本を並べたことで、その絵本を手に取りいつまでも絵本を読んでいる子どもの姿があるなど、絵本に親しんでいる姿をみることができた。
- ・当所の事業では、幼児を対象とした事業が少ないため、広報の仕方に苦戦しながら、締切日の延長や、広報先の追加で募集定員に達することができた。新規利用の家族が15組中7組いたことは体験活動の普及の裾野を広げた成果であり、アンケートには「また利用したい。」と書かれていた。今後の利用につながることを期待できる。

《課 題》

- ・1日目に職員と法人ボランティアが絵本の読み聞かせを行った際、事前に絵本専門士から読み方のポイント（手の置き方等の絵本の位置、絵本の開き方、声の抑揚のつけ方など）を事前に聞くことでよりよい読み聞かせができたと感じた。一方で、参加者の人数に応じて絵本のサイズを大きくしたり、家族ごとに前につめて読み聞かせをしたりと工夫を行ったが、アンケートからは、見えにくかったとの意見があり、今後改善する必要があると感じた。
- ・利用日1週間以内にキャンセルが7件あった。原因はコロナウイルス感染症拡大への懸念や体調不良であった。今後の事業では、それらの要因を考慮しながら、募集定員を増やしたり、キャンセル待ちができるようにしたりするなど、体制を整えたい。



親子でランプシェードづくりに挑戦



みんなでクリスマス会



講師、スタッフによる群読

(担当：事業推進係 渡邊 絵里子)